

「瀬光二理事の事業計画は、企業対策として、両連合会の上層団体の全国清涼飲料工業会と共あるけれど、同でコンプライアンス研修会を継続していく。また、

欲

とあいさつした。総会では各議案が承認可決された。グループ幹部社員紹介や各セクメントの前業績と近況を報告したあと、上野裕一トホー社長が「中計の5つの経営方針と7つの重点施策をスピード感を持ち、着実に確実に実行している。特に『事業の選択と集中』については、4年間で11事業を整理し、現在は4つのコア事業プラスワンとして、外食ビジネスをトータルにサポートする企業を含めて4つの大きなコア事業に経営資源を投入している。『ビルド&スクラップ』は、復興、復旧のためにも今年、被災地の宮城県へぜひ進出したい。新店開発が遅れているAグループも再度巻き返しを図りたい。M&Aも着実に実施し、業務用食品卸企業6社をグループ入りさせたが、

原料の原産地などの問い合わせ体制の整備をする。組織対策として、会員外事業者の組合加入の促進を目指す。各都道府県の組合に存

これらのも拍車をかけてグループ総合力、お客さまへの支援体制作りを強固にする。20企業をグループにな

東京の今年度は950頭まで拡大

TOKYO X



植村光一郎会長

東京のブランド豚「TOKYO X」の流通・販売業者を組織するTOKYO X Associationは5月19日、東京八王子の京王プラザホテル八王子で総会を開き、会員50人が出席した。冒頭、植村光一郎会長(ミ

の資金が減少していることを背景に、組合員の製品などを分析費用を助成していたものを中止する。(久保喜寛)

したが、風通しの良い企業グループであり続け、同じ考え方で同じ方向を見て、ベクトルをひとつに合わせ

は8441頭から今年度は9500頭まで拡大する。



TOKYO Xの流通・販売業者50人が出席して開かれた

25日、東京・港区の日立金属・高輪和臨館で定時総会を開催し、役員改選に伴う人事では、新会長に池田章子前副会長(ブルドック)

て一致団結し、皆さまともさらに成長していきたい」と抱負を述べた。(深瀬雅代)

TOKYO Xを単なる商品として捉えるのではなく、三重の松阪牛、岐阜の飛騨牛のように、東京に来たらぜひ食べて帰りたいと思われようなブランド、食文化として育てていきたい」と話した。

続いて来賓の東京都農林水産振興財団の斎藤彰明事業課長が「競合ブランドも台頭する中、TOKYO Xを開発した東京都、生産者、流通業者の三者がより一層協力していくことが求



池田章子新会長

められる」とあいさつ。同協会北村直人会長が「B to B」という視点から消費者を巻き込むことが再生産を図る上で不可欠」とし、生産関係者自らが量販店などの店頭に立ちPRしていき必要性を訴えた。

この後、平成22年度事業報告並びに23年度事業計画などの議案を満場一致で可決。事業計画としては新たに地産地消支援事業への参加が盛り込まれた。なお、役員改選については、植村会長以下、全員が再任された。

最後に「ポータレス時代のブランド化」と題して、植村会長による記念講演も行われた。香港や北京など

した。根岸康二理事(ギョウマン)取締役常務執行役員、金森健治理事(事務局)は退任。(木村繁男)

東アジアの畜産物の生産・流通状況について自らの視察体験を踏まえながら、コーデックス規格「準拠した第三者認証を受ける農場が増えている現状を報告。」「うかうかしていると日本も遅れを取る」と啓発した。

また、講演の中では、埼玉県優良生産管理農場に認定されている関口牧場の関口博考代表もゲストとして登壇し、餌の選定からこだわり、農場HACCPの導入など、衛生管理にも力を入れてブランド牛「彩さい牛」の育成に取組み、農場管理獣医師協会による第三者認証「FMA認証牛」の認証も受けている旨を披露した。(幸島ひとみ)

また、千瓢が栃木県に生まれ、来年300年を迎えることについて「大きな節目。組合でも独自の催しを考えている。300年の記念行事を行うため協力、ご支援のほどを改めてよくお願い申し上げます」と強調した。(板橋英俊)

承認された。谷野理事長はあいさつ22年産栃木県千瓢の減収について「7、8月の生産

中異常高温に見舞われたなど原因を説明した。また今年第10回を迎えた栃木かんぴょう祭りについて「多くの関係機関、関係のご支援の賜と改めてお申し上げます」と感謝の意を表した上で、「今回10日目の節目で今までの催しに加え、新たにかんぴょう祭りをやり、多くの参加を得た」と報告した。

また、千瓢が栃木県に生まれ、来年300年を迎えることについて「大きな節目。組合でも独自の催しを考えている。300年の記念行事を行うため協力、ご支援のほどを改めてよくお願い申し上げます」と強調した。

縮小したが、反収の向上による日照不足とその後の猛暑などで、過酷な1年だった」とまとめた。リンゴ収穫量は14万4900tで前年比9.4%減。結果樹面積は90ha減って7

縮小したが、反収の向上による日照不足とその後の猛暑などで、過酷な1年だった」とまとめた。リンゴ収穫量は14万4900tで前年比9.4%減。結果樹面積は90ha減って7

両宮宏和会長が再任 「安全・安心」へ連携強化

長野県缶詰協会

両宮会長は「震災、原発で。両宮会長は「震災、原発

今年度の事業計画では、緊急用食料として、缶・瓶詰、レトルト製品への関心が高まっていることから、HACCPやISOなどの認証取得の促進を図り、製造管理システムの強化と確

期に凍害、6、7月の長雨による日照不足とその後の猛暑などで、過酷な1年だった」とまとめた。リンゴ収穫量は14万4900tで前年比9.4%減。結果樹面積は90ha減って7

縮小したが、反収の向上による日照不足とその後の猛暑などで、過酷な1年だった」とまとめた。リンゴ収穫量は14万4900tで前年比9.4%減。結果樹面積は90ha減って7



では全員留として、価格改定、原料ひっ迫に伴い、量目を変更した事例や価格改定の進行状

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ

るが、今、原料の不足状況が強く生じている。いろいろとお世話になるが、ご指導をお願ひしたい」とあ